

新任教官と共に学ぶ、教育の力

—FD基礎プログラム・レポート—

大学開放実践センター 森 和 夫



6月8日(土)～9日(日)の2日間、初夏というよりも真夏のような陽光の淡路島でこの研修を実施した。今年から「FD基礎プログラム」が開始されたのである。これまでは1日だけの新任者研修だけであったが、この他に、教育や指導の方法についての研修を開設したものである。新しい教官にとって教育は研究と共に大事な仕事である。しかし、「教育や指導の方法」については組織的・体系的な教育を受けることはなかった方が多い。このことに注目し、教員の教育力を高める機会として設けたのだ。

新任教官22名と共にスタッフ18名と事務局4名が国立淡路青年の家に集まった。研修プログラムは大きくは講義と演習の2つからなる。時間数からみると演習の方が長い。講義のテーマは「FDとは何か、何が求められているか」、「教育の原理・原則を学ぶ」、「教育の計画から準備まで」、「効果的な教え方—実践的教授技術」の4つである。演習はワークショップで行われる。テーマは「徳島大学を語る」、「徳島大学のFDの現状分析」、「大切な教育の計画と準備」、「授業づくりと教材研究」を設定した。

このプログラムのハイライトの1つは学生の授業に対するアンケート結果の分析である。学生たちが考える「望ましい授業の姿」について多くを学んだ。また、第1日から第2日にかけて行われたプログラム最大のハイライトはワークショップ「授業づくりと教材研究」である。今回は「恋愛学」や「恐竜学」、「コミック学」、「生死学」のシラバスを作成し、そのひとこまを講義することである。各グループとも、夜遅くまで準備が続いていた。第2日午後から行われた授業発表会では各講義内容をめぐって研究討議を行った。講義のテクニックはもちろんだが、講義の組み立て方や展開方法について議論があった。講義といえども指導者と学習者とのやりとりのあるダイナミックな進め方や論理的で説得力のある進め方がよいと判断しているようであった。

このプログラムと並行してもう1つのプログラムが展開されていた。大学教育委員と授業エキスパートの方々には「徳島大学の教育理念の具体的な内容」、「学部教育と共通教育の望ましい関係」、「徳島大学のFD推進方策の条件整備」のテーマについて2日間討議したのである。この討議成果は新任教官たちに伝えられ、両プログラムが相互の作業に活力を与えていたように思う。

参加した教官の多くはこれからの各自の教育の取り組みについて、それぞれの想いをもって帰路についていた。これからの徳島大学の教育のリーダーとして活躍されることを期待したい。

FD基礎プログラムに参加して

総合科学部・音響環境研究室 森 太郎

白状しよう。私の普段の言動を知る方には意外かもしれないが、この企画は極めて有意義であった。駆け足だったこともあり細かいことはとうに忘れてしまったが、あの日以来「教える技術」について考えるようになったのは紛れも無い事実だからである。

今年初めての企画だそうだ。さすがに「授業評価アンケートの点数の低い方から順に」、とは怖くて誰も言い出せなかったと見え、徳大デビューの遅い順に、ということで落ち着いたらしい。

親族に不幸があった場合などは欠席してもよいが、必ず来年出席すること、というお達しがあった。直前まで腹が痛くなるつもりでいたが、結局参加した。来年に宿題を残したくなかったからである。参加費用の3000円をぶつぶつ言いながら支払い、バスに乗り込んだのだが、どなたかのスピーチで「どうせ参加するなら嫌々やるより楽しまねば損だ」、というのが効いた。確かにその通りである。おかげで素直に学ぶことができた。

実習では「恐竜学」とかいうものについて講義をしろ、と言われ面食らう。問われるのは教える技術だけ。しかも目の前には無愛想に(失礼!)待ち構えている、我が生涯最悪のギャラリー。緊張しない苦は無く、案の定大事なポイントを説明し忘れるボカをやってしまった。

しかし、冷静に考えてみれば口うるさい受講者を相手にする講師の方々、きつと輪をかけてご苦労されたことと思う。教える技術に関して考えるきっかけを作ってくれたことに、紙面を借りてお礼を申し上げたい。

医学部保健学科

検査技術科学専攻形態系検査学講座 細井英司

今回、新任教官の教授技術向上をねらいとしたFD基礎プログラムに参加した。このプログラムには、①徳島大学FD活動の理念と方法について理解し、推進する方向を示す。②授業を計画し、実施し、評価する方法を体得する。③授業研究の仕方を理解し、実践できるようにするという3つの到達目標がある。今回のプログラムは1泊2日であったが、大変ハードなスケジュールであった。しかし、これまでの教育に対する自分自身の考え方や講義方法について考えることができた点、さらに専門性の違う教官たちの教育に対する考えが聞けたことは、私にとって大変よかったと思う。また、教育において、一方通行の授業にならないように学生との対話形式を多くし、授業の到達目標を明確にすることが大切であるということを再確認できたことは、これからの教育にプラスになったと思う。

さて、今回の基礎プログラムは、理想的な教育方法が多く盛り込まれており、初めて研修を受ける者にとって参考になると思う。しかし、教育方法は、教育内容や科目により異なるため、そのやり方をどのように活用するかは、各自が判断しなければならぬ。たとえば、一科目における時間数は限られており、しかし、学生に教えるなければいけない教育内容は年ごとに増えているからである。従って、今後、現実的な教育方法のプログラムも大切になってくると思われる。